

# 駒ヶ根市中沢地区の魅力 再認識する住民と学生たち

若年層の流出による人口減少と高齢化に悩む駒ヶ根市中沢地区。地域の魅力を再認識し、活性化を計る活動の一環として行われた「中沢地区魅力発見調査」は、住民の意識にどんな変化をもたらしたのだろうか。最終回となる今回は、住民の声やその後の中沢地区の動きをお伝えしながら、今後について考えたいと思う。



4日間に渡って行われた調査の最終日の「中間報告会」会場には、世代を超えて多くの住民の皆さんが学生とメンバーたちの報告を楽しみに訪れた

9月10日から3泊4日の日程で行われた「中沢地区魅力発見調査」。前号までにお伝えしたとおり、江戸川大社会学部・鈴木輝隆教授とゼミ生、ローカルデザイン研究会メンバーら24名が中沢を訪れ、フィールドワークを行った。期間中、学生らは公民館へ宿泊し、住民の手料理を味わいながら聞き取り調査を実施。深夜まで続いた論議の結果は、最終日である13日の「中間報告会」で発表された。

## 若者が見た中沢の魅力と地域振興策の提案

この報告会には約100名の住民が出席。誰もが真剣な面持ちで若者らの意見に耳を傾けた。中沢の食材と郷土料理に着目した「食べ物、伝統、創造」班は、手料理は記憶に残る、との想

いから「中沢食堂」設置を提言。さらに「中沢五十景の公募」「蔵を使った販売所」手づくり花火体験などのアイデアが次々と飛び出し、住民らを感じさせた。また「中沢にこれがあったら住みたい!!」とのテーマでは「何でも売っているお店が欲しい」「空き家を安く貸し出して」等の意見も。ただしこれらも中沢の景観保全を重視し「コンビニはNG」「新たにアパートを建てる必要はない」との条件付きだ。初日は「いまだときコンビニがなければ暮らせない」と話していた学生たち。この4日間の体験を通じて、彼らの心の動きが見えた瞬間でもあった。

## 住民からの感謝の声と、中沢地区のその後の動き

「食、景色、人のあたたかさ。思っていた以上に中沢の良い所を発見してくれた」と賞讃するのは中沢区長・春日源之さん。中沢地域づくり委員長の坂井昌平さんも「若者はストレートな表現で我々が忘れていた魅力を浮き彫りにしてくれた。彼らの意見を今後の地域づくりに活かしたい」と2月の最終報告に期待を寄せる。この活動を終え、住民らは地域の魅力をいかに内外へ発信するかを検討。HP制作にも着手し「中沢に暮らしたい」という問合せに迅速に対応できるよう体制を整

## 各班の発表

1.スケッチ班 2.かたちデザイン班 3.人材班B 4.商品づくり班 5.都会に住む学生たちやメンバーが、中沢での4日間で多くの人と出会い、語り、感じたことを満面の笑みを浮かべて話す鈴木教授 6.今回の調査を踏まえて、これからの中沢をもっと元気にしていきたいと語る、中沢地域づくり委員長の坂井昌平さん 7.映像班 8.食べ物班 9.4日間の会場となった駒ヶ根市中沢地区。静かで美しい里山 10.食料を提供し、食事を作ってくださった中沢地区の皆さんに感謝



## 中沢地区の地域力

「今回の活動に参加した中沢地区の皆さんの姿を見て、改めて帰属意識の強さを感じました」と語るのは駒ヶ根市役所の小原昌美さん。聞き取り調査や、食事中の何気ない会話の際、それぞれの住民が地域を語る笑顔と語り口は、どの誰にも負けない地域プロデューサーや営業マンのように輝いて見えたという。「地域を育て続けるためにはそこに住む普通の人々が真剣になれば長続きしないし『本物』にはならない。今回の活動が一過性の物にならぬよう、いかにモチベーションを高められるかが今後の課題」と気を引き締める。住民が地域の価値を認識し、愛着と誇りを持って行動することで、地域の潜在力は引き出される。そうなれば、その醸し出された雰囲気を感じていきたいと思う人々が新たな住民として引き寄せられるのではないかと考えるからだ。

駒ヶ根市産業振興部商工観光課工業振興係  
☎0265・83・2111



## 異分野連携による地域活性化施策

一方、活動の立役者でもある鈴木教授は、協力してくれたすべての人びとに感謝しつつ、「学生たちは、自らの意志で生活を送ること、創造する豊かさを中沢の皆さんから感じ取ったよう。住民が地域や人を思う気持ちがふるさとを創造する。若者を使い捨てにする社会は『ふるさと』にならない。すべてに本物が求められる時代において、中沢には本物の『ふるさと』があり、ここに真の地域再生のヒントがある」と語る。そのうえで今後の中沢に求められることとして「世代を超えて交流と創造を楽しみ、農業+商業+工業+サービス+デザインから小さな文化+小さな経済を誕生させる」ことを提唱。異分野連携による活性化施策は今後の大きな課題となりそうだ。

規模の大小に関わらず、人との繋がりが、歴史、文化を大切に考える住民の力により地域は守られている。若者の鋭い感性を光源に、中沢の住民たちの想いは、いま輝きはじめた。今後の発展を大いに期待したい。